

| | | | | | | | |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|----|---------------|--------|------|----|
| 科目名 Course Name | 生活支援技術Ⅶ Independent Living Skills Ⅶ | | | ナンバリング No. | J3-003 | | |
| 年次 | 2年 | 期別 | 前期 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 |
| 担当者氏名 | 大熊 信成 | | | | | | |
| 連絡方法 | C-Learning で対応。 または福祉棟 3F 研究室。オフィスアワーは授業担当時間以外。 | | | | | | |
| 必修/選択 | 選択(介護福祉士養成課程必修) | | | | | | |
| 関連 DP | DP2, DP3, DP4 | | | | | | |
| 授業の概要と到達目標 | <p>精神障害および知的障害の原因疾患や特性、個々の生活障害を理解し、その介護・援助の視点と留意点について学ぶ。また、保健・医療と福祉関係者との連携のあり方についても学ぶ。そして、メンタルヘルスの概念を理解し、心の健康について考える機会とする。</p> <p>①精神障害および知的障害の特性がわかり、介護・援助の視点を説明できるようにする。 ②メンタルヘルスの概念を理解し、心の健康を保つ工夫を考えることができるようにする。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | <p>演習科目であるが、講義が中心となる形式である。精神障害者の適切な把握のために、精神障害者の事例をもとにロールプレイやグループディスカッションを行い、利用者の状態や状況に応じたコミュニケーションについて考える授業とする。また、学んだ基本知識を実際のコミュニケーションに活かせるようにする。リアクションペーパーを実施し、グループ討議での振り返りを行う等アクティブラーニングの技法を取り入れる。また必要に応じて小テストを実施するとともに介護福祉士国家試験対策も行い、知識の定着を図る。</p> | | | | | | |
| 学習成果 | L01 | | | | | | |
| | L02 | 精神障害および知的障害の障害特性から、介護に必要な視点を説明することができる。 | | | | | |
| | L03 | 自己の心の健康について考える機会とすることができる。 | | | | | |
| | L04 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎回の授業でリアクションペーパーを実施する。リアクションペーパーは振り返りを行い全員でシェアをする。また試験対策を行い、授業内で解答・解説を行う。 | | | | | | |
| 教科書/参考図書 | <p>①最新・介護福祉士養成講座 第8巻「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版 ※1年次に購入済。</p> <p>②「現代社会福祉の諸相」大熊編著 大学図書出版 他 授業中に指示し、資料を配布する。</p> | | | | | | |
| 履修上の留意点やルール等 | 一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回45分とする。介護福祉士養成課程の学生のみ履修可。 | | | | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | | | | |

| 成績評価の方法と基準 | | | | | |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------|-----|-----|-----|
| 評価の領域 | 評価基準 | 学習成果の割合 | | | |
| | | L01 | L02 | L03 | L04 |
| 授業参加態度 | 授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。 | | 20 | | |
| レポート/作品 | 提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。 | | 20 | | |
| 発表 | | | | | |
| 小テスト | | | | | |
| 試験 | 論述、選択記述式の定期試験を行い、評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。 | | | 60 | |
| その他 | | | | | |
| 合計 | | | 40 | 60 | |

| 回数 | | 授業計画 |
|----|---------|----------------------------------------------------------------|
| 1 | 授業内容 | ガイダンス(授業概要と進め方・成績評価の方法など) 障害の理解についての振り返り |
| | 事前・事後学習 | 障害についてテキストを参照にしてノートにまとめること。テキストp.2～11 |
| 2 | 授業内容 | 精神疾患の基礎知識① 統合失調症 |
| | 事前・事後学習 | 統合失調症について調べておくこと。テキストp.198～206 |
| 3 | 授業内容 | 精神疾患の基礎知識② 気分障害(躁うつ病を中心に) |
| | 事前・事後学習 | 躁うつ病のメカニズムについてテキストを参照にしてノートにまとめること。テキストp.209～216 |
| 4 | 授業内容 | 精神疾患の基礎知識② 薬物依存症(アルコール依存症を中心に) |
| | 事前・事後学習 | 薬物依存について配布資料を参照にしてノートにまとめること。 |
| 5 | 授業内容 | 精神障害者の特徴と介護・援助の視点① 統合失調症を中心に |
| | 事前・事後学習 | 精神障害者における援助についてノートにまとめておくこと。テキストp.198～218 |
| 6 | 授業内容 | 精神障害者の特徴と介護・援助の視点② 気分障害を中心に |
| | 事前・事後学習 | 精神障害者における援助についてノートにまとめておくこと。テキストp.198～218 |
| 7 | 授業内容 | 精神障害者の地域生活、医療の現状、地域生活に必要な条件精神障害者の地域生活を支える支援と制度、保健・医療・福祉関係者との連携 |
| | 事前・事後学習 | チームケアの意義について配布資料を参照にしてノートにまとめること。配布資料を参照すること。 |
| 8 | 授業内容 | 精神障害者の理解について |
| | 事前・事後学習 | 精神障害者の理解についてレポートを作成すること。提出すること。テキスト及び配布資料を参照すること。テキストp.198～218 |
| 9 | 授業内容 | 知的障害の概念とその理解および捉え方、ノーマライゼーションの概念 |
| | 事前・事後学習 | 知的障害の概念についてテキストを参照にしてノートにまとめること。テキストp.190～197 |
| 10 | 授業内容 | 知的障害の原因と特徴 |
| | 事前・事後学習 | 知的障害の原因と特徴についてテキストを参照にしてノートにまとめること。テキストp.190～197 |
| 11 | 授業内容 | 知的障害児(乳幼児期・児童期)の特徴と介護・援助の視点 |
| | 事前・事後学習 | 知的障害児の支援について自己の考えをまとめておくこと。テキストp.190～197 配布資料を参照すること。 |
| 12 | 授業内容 | 知的障害者(成人期・高齢期)の特徴と介護・援助の視点 |
| | 事前・事後学習 | 知的障害者の支援について自己の考えをまとめておくこと。テキストp.190～197 配布資料を参照すること。 |
| 13 | 授業内容 | 地域生活と社会参加 必要な条件と支え |
| | 事前・事後学習 | 参加と活動についてICFの視点で考察し、ノートにまとめること。配布資料を参照すること。 |
| 14 | 授業内容 | 知的障害者の理解 事例分析法 |
| | 事前・事後学習 | ケーススタディについてテキストを参照にしてノートにまとめること。配布資料を参照すること。 |
| 15 | 授業内容 | 障害を持つ人の加齢と生活障害、まとめ |
| | 事前・事後学習 | 今後の課題について自己の考えをまとめておくこと。試験対策を行うこと。配布資料を参照すること。 |